

## 外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

## 1. 基本情報

令和4年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 佐藤 明	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	<a href="http://aizuyaichi.or.jp/">http://aizuyaichi.or.jp/</a>
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	<a href="mailto:aizu-81@athena.ocn.ne.jp">aizu-81@athena.ocn.ne.jp</a>
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①		會津八一記念館管理運営事業						
事業概要	<p>(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。</p>							
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民會津八一の内外に誇るべき書作品を紹介することは、市の文化的財産の豊富なことを認識してもらう手段。文化事業への理解と関心を高める。</p>							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公益事業	受託事業	支出額	千円	予算	43,525	47,522	40,468	41,087
				決算	43,516	46,287	40,468	
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館者数	R4	人	4,500					
	R3	人	4,000	5,586	特別展「會津八一と茶の湯の世界」が3000人を超える盛況で、行動制限がかかる中では健闘した。			
	R2	人	4,000	3,453	感染症発生による行動の変化（自粛）			
	R1	人	8,000	7,466	ほぼ達成。1～3月、特に3月はコロナ感染発生で例年を大きく下回った。			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館料	R4	千円	1,500					
	R3	千円	1,500	1,817	茶の湯の関係者が多く来館してくれた。			
	R2	千円	1,000	922	感染症拡大による入館者減少			
	R1	千円	3,000	2,051	感染症発生の影響を受けた			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		文化的財産である作品等の保管及び管理が適切に行われた。						

## 2. 主要事業

事業名②		展示事業						
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に展示。年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p>							
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 孤高の生き方を貫き、優れた作品を残した八一の業績を知ること、新潟の文化的土壌の豊かさを再認識し、そのことを誇りとすることができる。</p>							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	5,093	5,191	4,996	5,272
				決算	7,171	3,977	6,621	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
特別展 (入館者数)	R4	人	3,000					
	R3	人	3,000	3,041		裏千家淡交会新潟支部の全面的な支援もあり、2016年以来の入館者3000人を超えた。		
	R2	人	3,000	0		実施せず		
	R1	人	3,000	2,300		富本憲吉という陶芸分野の人物を取り上げたことが関心を呼んだ。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
企画展 (入館者数)	R4	人	5,000					
	R3	人	5,000	2,545		コロナ感染防止対策で9月に16日間休館を余儀なくされ、県外からの来館者は大幅に減少した。		
	R2	人	5,000	3,453		コロナ感染症の発生と、その拡大懸念による自粛・休館等。		
	R1	人	5,000	5,166		国民文化祭期間中、天皇皇后両陛下がお越しになったことが注目された。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		<p>所管課として広報等で市民への周知を行った。 また、関係機関からの協力もあり、コロナ禍にも関わらず多くの方が来館し、會津八一の業績や作品を広めることができた。</p>						

## 2. 主要事業

事業名③		文芸講演会事業						
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業への関心を高め、文化的土壌を育むとともに文化・歴史に対する市民の誇りを高める。専門家の話を聞くことで市民の文化的教養が深まり、市の文化的厚み（文化度）が高まる要因となる。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	1,320	1,320	1,320	1,320
				決算	824	82	471	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R4	件	9					
	R3	件	6		9	企画展ごとの講演会のほか、館長自ら講師を務める6回連続の館長講座を開催した。		
	R2	件	3		2	感染症の広がりでの中止		
	R1	件	6		6	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R4	人	600					
	R3	人	600		801	上記の通り、6回の館長講座が好評だったことに加え、企画展講演会の講師の集客力も高く多くの聴講者を集めることができた。		
	R2	人	500		177	開催中止の影響		
	R1	人	1,000		518	3月実施予定の講演会を、コロナ感染の発生で中止せざるを得なかった。館外講座（八一の作品鑑賞・解説会）も同様に中止。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							

所管課の関わり及び  
主要事業にかかる評価

所管課として広報等で市民への周知を行った。  
多くの方の関心を集めた講演会を企画し、市民の文化的教養の向上や深化につなげることができた。

2. 主要事業

事業名④		販売事業						
事業概要		(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、往復書簡集（會津八一のやりとりした書簡の活字起こし）の制作販売。						
		(市政へどのように寄与・貢献するのか) 所蔵作品・資料を、展示とは別の形態（書籍、図録、商品デザイン）で活用することは、文化的財産への関心を別の角度（購入・読書）から高めることにつながり、市の文化事業理解へとつながる						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公益事業	自主事業	収入額	千円	予算	3,100	3,000	3,000	3,000
				決算	1,828	1,585	1,750	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
販売事業		R4	千円	2,000				
		R3	千円	2,000	1,114	會津八一生誕140周年を記念して発刊した「名品50選 獨往の書」は好評だったが、来館者の伸び悩みで今一步。		
		R2	千円	2,000	940	感染症発生に伴う人の動きの減少、それによる入館者の減少。		
		R1	千円	2,000	1,267	前前年度商品化した扇子以降、新規開発がおこなわれているのも一因。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
鑑定事業		R4	千円	1,000				
		R3	千円	1,000	636	依頼数が少ないうえに、鑑定会の認定率が低く、鑑定料、認定料ともに低迷した。		
		R2	千円	1,000	645	感染症の発生に伴い、年2回の開催を1回に減らしたため。		
		R1	千円	1,100	561	依頼数が少なかった。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R4						
		R3						
		R2						
		R1						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		生誕140周年を記念して発刊した書籍が好評となり、市民を始めた多くの方々の文化的財産への関心向上に貢献した。						

2. 主要事業

事業名⑤		普及活動事業							
事業概要		<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしてもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業の厚み、多彩さを印象付ける。また専門学芸員を擁すること、その知識経験を館外で発揮するというのも、市の文化的土壌の豊かさを認知してもらう契機となる。</p>							
		事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和元年度	令和2年度	令和3年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	2,600	2,650	2,650	2,650	2,650
				決算	2,677	1,956	1,867	-	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数		R4	点	180					
		R3	点	170	175	写真家の浅井慎平さんが審査員であり、15回続いたことで定着。撮影技術の向上していると評価された。			
		R2	点	150	165	さらに認知度が深まり、写真発表への意欲を刺激した。			
		R1	点	150	152	認知され普及しているから。			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
館長・学芸員の出前講演会、講座回数		R4	回	8					
		R3	回	7	6	コロナの感染拡大防止のため要請自粛もあったが、高齢者や小中学校、高校書道コースで実施できた。			
		R2	回	3	6	幸い公民館・学校からの要請があった。要請を恒例化してくれている団体もある。			
		R1	回	10	7	神林前館長が体調不良で活動に支障をきたした事、コロナの影響で開催が中止になったこと。			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由			
		R4							
		R3							
		R2							
		R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		写真コンテストについては、目標を上回る応募件数となり着実に定着している。出前講演会等については、コロナ禍の下ではあったが、會津八一の認知度向上に取り組んだ。							

## 3. 組織等の状況

## (1) 役職員数の状況

令和4年7月1日 現在 (単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	3	3	3	3
常勤	2	2	2	3
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	2	3
他団体からの派遣				
非常勤	1	1	1	0
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	1	1	1	
見直し等の取組み				

## (2) 職員の状況 (市派遣職員を除く。)

令和4年7月1日 現在 (単位：人)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
職員の状況	管理職				
	一般職	3	3	3	3
	合計	3	3	3	3
年齢構成	20代以下				
	30代	1	1		
	40代	1	1	2	3
	50代				
	60代以上	1	1	1	0
	合計	3	3	3	3

## (3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予算)
報酬・給与等	21,162	18,791	19,089	19,526
内 市職員分	0	0	0	0
役員	7,268	5,541	5,400	5,400
常勤				
内 市職員分				
非常勤	7,268	5,541	5,400	5,400
内 市職員分				
職員	13,894	13,250	13,689	14,126
常勤	11,221	10,624	10,990	14,126
内 市職員分				
非常勤	2,673	2,626	2,699	0
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	5,611	5,312	5,495	4,709
見直し等の取り組み				

## (4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

## 4. 財務の状況

## (1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般正味財産増減の部	経常収益	48,550	50,085	45,629
	基本財産運用益	3,184	3,184	3,184
	特定資産運用益	1	1	0
	受取会費			
	事業収益	42,692	44,119	39,720
	自主事業収益	2,813	2,040	2,931
	受託事業収益	39,879	42,079	36,789
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,673	2,781	2,725
	経常費用	49,506	49,159	45,466
	事業費	48,256	48,300	44,784
	公益目的事業費	40,001	40,306	37,818
	収益目的事業費	2,988	2,555	1,992
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,267	5,439	4,974
	管理費	1,250	859	682
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 956	926	163
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	▲ 956	926	163	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 1,026	856	93	
一般正味財産期首残高	36,399	35,373	36,229	
一般正味財産期末残高	35,373	36,229	36,322	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
	基金期末残高	0	0	0
正味財産期末残高	237,097	237,953	238,046	

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	21,162	24,342	19,965
役員分	7,268	6,941	5,937
職員分	13,894	17,401	14,028

## (2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産の部	資産の部合計	248,790	259,987	256,938
	流動資産	11,591	18,661	15,101
	現金預金	966	8,558	3,442
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	10,625	10,103	11,659
	固定資産	237,199	241,326	241,837
	基本財産	200,696	200,549	200,402
	特定資産	29,371	33,068	32,894
	その他固定資産	7,132	7,709	8,541
	有形固定資産	6,321	6,703	7,339
	無形固定資産	811	1,006	1,202
	その他投資等			
負債の部	負債の部合計	11,693	22,034	18,893
	流動負債	2,836	9,061	4,594
	短期借入金			
	その他流動負債	2,836	9,061	4,594
	固定負債	8,857	12,973	14,299
	長期借入金			
その他固定負債	8,857	12,973	14,299	
正味財産の部	正味財産の部合計	237,097	237,953	238,045
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	35,373	36,229	36,321
	代替基金			
	その他一般正味財産	35,373	36,229	36,321
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		248,790	259,987	256,938

## (3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市財政支出等の合計	43,596	46,367	40,548
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	43,516	46,287	40,468
内 随意契約額※	43,516	46,287	40,468
指定管理料（公募）			
指定管理料（非公募）	43,516	46,287	40,468
業務委託（随意契約）			
業務委託（その他）			
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

## (市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

## (4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
純資産	237,097	237,953	238,045
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拠出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	237,097	237,953	238,045

## 5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

## (1) 財務の健全性

指標		令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常損益		▲ 956 千円	926 千円	163 千円
自己資本比率	純資産	95.3 %	91.5 %	92.6 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	408.7 %	205.9 %	328.7 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	96.4 %	96.2 %	95.8 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 － 資本金（基本金）	38,697 千円	39,553 千円	39,645 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	90.4 %	92.2 %	93.4 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.17	0.17	0.16
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	● 有	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。</li> <li>② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。</li> <li>③ 資金運用に関する情報収集に努めている。</li> <li>④ 元本割れのリスクはない。</li> </ul>	○
		○		
	○			
	○			

## (2) 団体の自立性

指標		令和元年度	令和2年度	令和3年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	89.8 %	92.6 %	88.9 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

## (3) 経営の効率性

指標		令和元年度	令和2年度	令和3年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	14,231 千円	14,706 千円	13,240 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	▲ 319 千円	309 千円	54 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	2.5 %	1.7 %	1.5 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	417 千円	286 千円	227 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	43.6 %	48.6 %	43.8 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	34.3 %	28.5 %	29.7 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広め、存在価値を高める—生活様式変化の中で } 計画期間 令和2年度～令和6年度
概要・数値目標 コロナ禍が第7波に突入し、日々新規感染者数が爆発的に増加している。今後、行動制限が発表されるかもしれず、昨年同様、休館さえ視野に入れなければならない。こうした状況下では年間入館者数の目標設定も難しい。とはいえ、會津八一を顕彰する施設として、そうした外部要因に翻弄され、手をこまねいているわけにはいかない。郷土が生んだ異能の文人、會津八一の知名度を上げる活動を地道に継続していかなければならない。名誉市民第1号であることを考えれば、将来的には新潟市民は會津八一のことは誰もが知っているようにしたい。 <入館者>入館者は令和8年までにコロナ禍前の年間7000人を回復する目標を掲げているが、20年度は3500人、21年度は5500人ほどとなっている。行動制限がかかる中、去年は茶道団体の協力もあり、特別展だけで3000人を動員し、年間でも一昨年を大きく上回った。野中館長も「八一の書をもっと見たい」との要望に応え、自ら作品の解説会を開催したり、連続講座を開講し、固定ファンづくりに務めてきた。今後は中高生などの若年層へのアプローチが重要となる。コロナ禍では来館も難しいため、できればこちらから出向いて「学規」など、わかりやすい八一の作品から子供たちに広めたい。今夏、来館した新潟高校の女子生徒によれば3年生教室の廊下に学規の「日々新面目あるべし」が掲げられているという。こうした動きをほかの中学高校にも波及させ、八一に関心を持ってもらい、来館に結びつけたい。 <図録と在庫>特別展の在庫削減が課題となっている。昨年も述べたように販売価格との兼ね合いで、ある程度の部数を作ってきた。今後は積みあがった図録の在庫を必要分を残して美術館、博物館、学校現場などへ普及材として寄贈する。ただ、図録出版物は「資料」であり「普及」のための重要な備品と認識している。ある程度の在庫は「不良」とは位置づけない。 <普及>普及材としては「會津八一の名品50選 獨往」と冊子「會津八一の歌碑 奈良京都編」に続き、「同 新潟編」を令和3年度に発行した。 <財産整理と活用>膨大な収蔵品の整理も喫緊の課題。館蔵品図録の作成は研究鑑賞資料として、後世への責務と考える。令和3年度は前述の通り「飽津八一の名品50選 獨往」を発行し、所蔵品の中でも選りすぐりの逸品を記録した。會津八一没後70年までの間に実現すべき課題とその具体策については別紙。	
無	未策定理由

② 経理の適正化の取組み	
専門家による監事・監査役就任	専門家による会計指導
● 有	就任時期 年度～ 依頼先職種 { }
● 有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 { 税理事務所 }
● 無	無

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 平成29年度～ 法人税等はダイレクト納付を利用し、労働保険料支払いは口座振替引き落としにして直接銀行窓口へ行く回数を削減した。
● 無	

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 平成17年度～ 市や民間の生涯学習事業（市政トーク便りなど）や小中高大学の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげ、若年層への知名度アップも図っている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外博物館の見学や交換展で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。また新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。
● 無	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況																				
● 有	策定期限 平成12年度～ 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }																			
● 無	未整備理由 { 役員は無報酬 }																			
●	<table border="1"> <tr> <td rowspan="9">団体ホームページ掲載</td> <td>定款等</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>役員名簿</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>役員報酬</td> <td>年度～</td> </tr> <tr> <td>事業報告</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>正味財産増減計算書</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>貸借対照表</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>事業計画書</td> <td>21年度～</td> </tr> <tr> <td>予算概要</td> <td>21年度～</td> </tr> </table>	団体ホームページ掲載	定款等	21年度～	事業内容	21年度～	役員名簿	21年度～	役員報酬	年度～	事業報告	21年度～	正味財産増減計算書	21年度～	貸借対照表	21年度～	事業計画書	21年度～	予算概要	21年度～
団体ホームページ掲載	定款等		21年度～																	
	事業内容		21年度～																	
	役員名簿		21年度～																	
	役員報酬		年度～																	
	事業報告		21年度～																	
	正味財産増減計算書		21年度～																	
	貸借対照表		21年度～																	
	事業計画書		21年度～																	
	予算概要	21年度～																		

改善対応区分 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む) B: 改善の取組の効果が始まっている C: 改善の取組に着手 D: 改善の取組に向けて検討中 E: 今は実施せず今後の課題とする
--

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。					
		隣接する「文化の記憶館」との一体的運営を検討					
改善のために取り組んだ内容		協議半ばである。					
取り組みによる成果							
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		増員の検討	計画	組織の在り方検討	組織の内容を決定	あるべき組織を再検討	現組織体制の検証
			実績	検討中	検討中		
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 組織運営の在り方を含め協議中。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 増員が可能かの検討。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 一体的運営の見通しがついた段階で、特に財政的裏付けの面から可能性を協議。				

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。								
改善のために取り組んだ内容		展示会やイベントごとに、アンケート結果なども参考にしながら、細かな展示方法や展示点数などについて反省し、次回の企画立案に反映している。来館に結びつくよう関心のもてる企画、多くの人の目を引き付ける展示、講演会などを目指している。								
取組みによる成果		コロナ禍の行動制限もあり、明確な成果を判定することはできないが、「會津八一と茶の湯の世界」は3000人超が来館し、年間来館者数も令和2年度の3500人から5500人へ伸びた。								
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E			
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	写真 コンテスト	計画	文芸関係の部活生徒への応募働きかけ		応募170点		応募180点		応募190点	
		実績	未着手		応募175点					
	進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和3年で15回目を数えたコンテストで、浅井慎平さんが審査委員長を務めていることで認知度は定着してきた。応募点数も着実に増加傾向を示している。								
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 応募者の多くが浅井慎平さんの審査を受けることに期待していると思われるが、先生も80歳を超えたため、今後の方向性を決める時期に来ている。また會津八一の歌を写すという基本概念に適切に対応できる写真家の発掘は難しい。								
	課題への対応	【今後の課題への対応】 浅井先生の負担にならないよう、後任の写真家を探さなければならない。先生にも助言を受けながら八一の歌を理解してくれる写真家を探す。								
	その他	計画	八一祭トークイベント	八一祭トークイベント、館長講座	八一祭トークイベント 館長講座	八一祭トークイベント 館長講座				
		実績	中止	いずれも実施	7月31日実施予定					
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 八一祭トークイベントは開催中の企画展「学規と教育」にちなみ、教育者としての會津八一を語りあった。新潟放送からは特別番組「ふかくこの生を愛すべし」を制作してもらい、市内の高校生や大学生が出演し、10代の若い世代に八一のことを知ってもらおう試みとなった。							
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 コロナ禍でも、新潟市が生んだ文人・會津八一の知名度を上げるため、引き続き中高生など若い世代へアピールできる施策を検討する。							
課題への対応	【今後の課題への対応】 とりあえず、市内の中学校を対象に出前授業を検討する。									

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。				
改善のために取り組んだ内容		出前講座や学校単位の来館などの機会を利用して、小中高生に會津八一の業績や人となりを紹介し、次世代への継承を進めている。また奈良を中心とした寺院などとの交流を継続しており、文化の広域連携の一端をになっている。				
取り組みによる成果		コロナ禍の影響もあり、高齢者以外の出前講座は小中高とも1校ずつ、来館者は全体で10校、市内では中学校7校、高校1校にとどまった。				
改善・対応区分		A	B	● C	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	計画	生誕140年事業内容	140年記念事業実施と没後70年事業の検討	名品50選刊行記念展の開催	創立50年、没後70年事業の検討	
	実績	決定	名品図録などを発行	2回の企画展で紹介中		
	進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 生誕140年事業は予定通り実施した。 没後70年事業は手つかず。				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 令和8年の没後70年に向け、引き続き検討を進める。また同7年は記念館創立50周年にあたるため、その準備も始める。				
	課題への対応	【今後の課題への対応】 生前の業績を改めて検証するとともに、没後に再評価されたことも含め、會津八一の残した功績を一般市民に再認識してもらえよう事業展開を考えたい。創立50周年に向けてはこれまでの記念館の歩みと會津八一顕彰活動も振り返る。				

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。						
改善のために取り組んだ内容		写真コンテストの授賞式を取りやめるなどの経費削減を行った。						
取り組みによる成果		令和2年度、3年度とも一般正味財産増減額はプラスになっているが、2年度に比べれば3年度はプラス幅は縮小している。						
改善・対応区分		A	B	● C	D	E		
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度	
	出版	計画	歌碑写真集県内版制作		歌碑写真集県内版、収蔵作品集		書簡集「雁魚来往」第10号制作	書簡集「雁魚来往」第11号制作
		実績	発刊に至らず		會津八一の歌碑 新潟編を発行			
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 「會津八一の歌碑 奈良・京都編」の姉妹版として「同 新潟編」を発行。県内26基を掲載した。					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 市内にある會津八一の歌碑を市民にも認知してもらう。					
		課題への対応	【今後の課題への対応】 令和4年秋には新潟市中心部にある歌碑をめぐるウォーキングツアーを予定している。					
	発信活動	計画	テレビCM、新聞広告		CM、新聞広告		テレビCM、新聞広告	テレビCM、新聞広告
		実績	新聞第1面		企画展は新聞、特別展はCMも		企画展は新聞、特別展はCMも	
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画通りテレビCMと新聞広告によるPRは実施している。またホームページでも展示会の案内のほか、講演会の応募締め切りなど急ぎの情報は適宜掲載している。					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 テレビCM、新聞広告は継続的に活用していく。またホームページやネットメディアの活用法について検討しなければならない。過去にも2人の学芸員が一週間に一度程度ブログを更新したことがあったが、反響が少なく、徒労感が否めなかった事例も参考にどのような方法が適切か検討する。					
課題への対応		【今後の課題への対応】 ホームページの展覧会案内に展示作品の一部を紹介するなど、来館のきっかけづくりを模索する。						

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	アンケート回収率を上げるため、プレゼントが当たる興味深いクイズを実施した。					
	取り組みによる成果	クイズへの回答で回収率が多少上昇した。					
	改善・対応区分	A	B	●	C	D	E
	実施事項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	アンケートの回収率向上	計画	回収率9%	回収率9%	回収率9%	回収率9%	
		実績	8.7%	9.60%			
進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 回収率は目標をかりうじて達成できた。						
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 10%近い来館者がアンケートに回答してくれている現状は、かなり高い水準にあると思われる、維持できるよう工夫する。						
課題への対応	【今後の課題への対応】 現在も作品をよく見ってもらうための簡単なクイズを実施し、回答者全員に絵葉書、当選者には記念館の商品もプレゼントしている。このような方法でアンケートに誘導しており、今後も継続する。						

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		残部数の多い特別展の図録と英文パンフを市内30の高校に寄贈。法隆寺には色紙寄贈。絵葉書はアンケート回答者にプレゼント。					
取り組みによる成果		特別展図録180冊、英文パンフ30冊、色紙50枚の在庫削減。絵葉書プレゼントでアンケート回収率アップ。					
改善・対応区分		A	B	C ●	D	E	
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	
		実績	940千円 (26%減)	1,114千円 (18.5%増)			
	進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大が始まり、人々の行動を強く束縛した結果、来館者数が大きく減少した影響を受け、書籍やグッズの売り上げも落ち込んだ。3年度はこれとの対比となるため上昇した。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 来館者数頼みの部分が多いが、興味、関心を持ってもらえる商品の開発も検討し、成人を対象とした出前授業の折にも必要に応じて注文を受け付けるなどの販売ルートの開拓も必要か。出前授業の中心となる高齢者や学生相手には難しいかもしれない。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 會津八一記念館を訪れた記念に買ってもらえるようなワンコインで買える希少グッズの開発。					
	既存在庫削減	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	
		実績	9,929千円 (6%減)	11,570千円 (16%増)			
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和3年度末に「會津八一の名品50選 獨往」と「會津八一の歌碑 新潟編」を発行したこともあり、実績が増えた。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新規に作成するものは単価と部数の関係からなるべく在庫が多く残らないよう販売に務め、売れ行きが悪く、古くなったものは計画的に整理する。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 発行から一定程度時間が経過したものから、保存分を残し、美術館・博物館、図書館、教育機関などに寄贈する。会計処理上も問題がない範囲で税理士と協議する。						

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。							
改善のために取り組んだ内容		色紙・図録とも単なる商品ではなく、文化的資料であると位置づけ、普及材としての活用で在庫の削減を進め、学校、會津八一と関係の深い奈良の寺院等に寄贈を開始した。							
取り組みによる成果		在庫部数の減少。							
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E		
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	計画	—		訪問5校来館10校		訪問5校 来館10校		訪問5校 来館10校	
	実績	1校		訪問1校 来館7校					
	進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 訪問は中学以外に小学校、高校が各1校、高齢者グループ3件、来館は高校3校となった。							
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新型コロナウイルスの拡大による行動制限が発令されればアプローチは難しい。							
	課題への対応	【今後の課題への対応】 新型コロナウイルスの感染が収束する前提で、中学校へ出前授業を受け入れるよう呼びかけ、これをきっかけに来館するよう誘導したい。							
	計画	—		25%		30%		30%	
	実績	23%		27%					
	進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和3年度は何とか計画を上回った。							
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新聞広告の露出が一番多いため当然だが、2,3位はチラシとポスターとなっており、3つの媒体で6割を超えている。一方ホームページは6%にとどまっている。							
課題への対応	【今後の課題への対応】 かつて2人の学芸員が1週間おきにブログを更新したこともあったが、反応が低調だった経験もあり、どのような手法が適切か検討する。当面は上位3つの紙媒体中心に呼びかけていく。								

<b>改善対応区分</b> A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む) B:改善の取組の効果が始まっている C:改善の取組に着手 D:改善の取組に向けて検討中 E:今は実施せず今後の課題とする
--

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが)1室というのは内容は別として「ここだけ？」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。					
改善のために取り組んだ内容		現状では展示スペースの拡張は無理。4壁面ほかに中央に展示棚を設け、展示点数を増やすようにしている。また廊下に隣接したビデオルームでも八一を紹介するビデオのほか、展示会の関連作品を展示している。					
取り組みによる成果		アンケート結果によれば、「とても良かった」「良かった」を合わせると95%に達した。また来館回数が2回以上の方が56%、特に5回以上が31%と固定ファンも根付いていると思われる。八一の生涯や業績を説明するビデオには地元にかかわる場面も多く、鑑賞する来館者も多い。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	展示の充実	計画	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	
		実績	達成	達成			
		進捗状況	【令和3年度までの達成状況及び今後の見込み】 会津八一の名を冠した施設であり、常に八一の作品を意識して展示している。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 アンケート結果によれば、「とても良かった」「良かった」を合わせると95%に達した。また来館回数が2回以上が56%、特に5回以上が31%と固定ファンも根づいていると思われる。当たり前だが、来館を促す企画を追求する。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 来館者はコロナウイルスの感染状況によって左右される。ほかの課題への回答でも記載した通り、若年層へのアプローチ、特に中学校への浸透を図りたい。				

## 7. 評価の結果

## 【団体の評価コメント】

<b>財務の健全性</b>	指定管理料で公益目的事業を運営している。収益事業については、販路を拡大して収益を確保し、公益目的事業を支えていくことが必要であると認識している。
<b>団体の自立性</b>	地元新聞社、放送局、美術振興団体から寄付を受け、あるいはそれらの機関・団体に役員や運営委員等は委嘱しているが、年3回の企画展、1回の特別展とも2人の学芸員を中心に館長が監修して開催している。またこれらに関連する文芸講演会や写真コンテスト、八一祭なども外部の援助なく開催している。館長による連続講座や作品鑑定会なども開催し、収益の一部として貢献している。
<b>経営の効率性・適正性</b>	常勤職員が事務長1人、学芸員2人、事務職員1人に非常勤の館長1人で、企画展、特別展、講演会、写真コンテストなどのイベントを運営し、毎週月曜日の休館日以外は開館している。効率的であり、適正だと認識している。
<b>その他</b>	

## 【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

<b>今後改善を要する事項</b>					
<b>評価指標</b>	<b>実施事項</b>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

## 【団体による総括的な評価】

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で、政府による「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が断続的に発令され、国民の行動が制限された。そんな中でも、特別展で3000人を超える来館者があり、年間来館者も激減した令和2年度とコロナ感染前の令和元年度の間くらいまで戻した。展示会以外では野中館長自ら講師を務める館長連続講座を6回開催、毎回参加する固定ファンも多く、新たな誘客手段となった。一方、小中高生へのアプローチはコロナ禍で来館者も出前講座も回復力が弱く物足りなかった。今後は中学校への出前授業などを企画し、若年層への認知度向上を目指し、能動的に接点を求めていく。図録や色紙の在庫整理を進め、250点以上を寄贈した。今後も税理士と協議しながら、必要部数を超える部分の整理を計画的に進める。
---

## 【所管課による評価】

令和3年度は前年度同様にコロナ禍での運営ではあったが、入館者数は徐々に回復している。特に特別展においては多くの来場者を記録したほか、館長講座や講演会なども好評であった。また、来館者のニーズを把握するためのツールである来館者アンケートについては、回答者に特典を用意する等工夫を凝らして取り組んでいた。
---

【総合評価】

概ね良好	● 改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
<b>総括的な所見</b>			
隣接する「にいがた文化の記憶館」との一体的運用の検討が開始されたことは、運営人材の確保の観点から評価できる。関係機関の協力や所管課の広報等によって多くの来館者を記録していることから、今後も特別展の開催などを中心に、所管課から具体的な企画等の助言を積極的に行っていく必要がある。			
<b>改善指示事項</b>			
特別展や企画展といった展示事業については、引き続き関係各所との連携を深めていく必要がある。また、在庫管理を適切に進めるため、不良在庫に対する考え方・評価基準を所管課と協議を進めながら明確にし、適切な会計処理を行う必要がある。			

【総合評価を受けての団体としての決意】

令和5年3月1日 公益財団法人會津八一記念館 理事長 佐藤 明 特別展、企画展などの展示事業は講演会や解説会とも連動させ、さらなる入館者増につながるよう、所管課の協力、助言を受けながら展示内容を検討していく。 特別展図録やグッズの在庫については所管課と具体的な評価基準を協議し、適切な会計処理に従い、八一の業績を顕彰する記念館の設置目的に合致するよう活用し、適正な水準に整理していく。
--

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

<b>改善指示事項</b>		特別展や企画展といった展示事業は、関係各所に引き続き協力を仰いでいく必要がある。			
<b>評価指標</b>	<b>実施事項</b>	<b>令和4年度</b>	<b>令和5年度</b>	<b>令和6年度</b>	<b>令和7年度</b>
	計画	法隆寺管長講演会	新規協力企業獲得	未定	未定
	実績				
	<b>今後の課題</b>	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 小中学生など、子供たちにも名誉市民・會津八一の存在を知ってもらうため、出前授業開催を呼びかける予定だが、教育委員会の協力が欠かせない。また、令和4年度は特別展期間中に有名寺院管長の講演会を開催し、中高年の来館者の拡大を狙ったが、広がりは限定的だった。書と短歌中心の會津作品を若年層から中高年にどう関心を持ってもらうか。			
<b>課題への対応</b>	【今後の課題への対応】 まずは八一の母校である新潟小学校、新潟高校に、比較的身近に感じてもらえそうな「学規」に因んだ授業を提案する。大学、カルチャースクール、八一の愛好者団体などへの講師派遣や出前講演会を継続する。				

<b>改善指示事項</b>		在庫管理を適切に進めるため、不良在庫に対する考え方・評価基準を所管課と協議を進めながら明確にし、適切な会計処理を行う必要がある。			
<b>評価指標</b>	<b>実施事項</b>	<b>令和4年度</b>	<b>令和5年度</b>	<b>令和6年度</b>	<b>令和7年度</b>
	計画	八一祭出席でグッズ進呈	全講座出席で図録進呈	未定	未定
	実績				
	<b>今後の課題</b>	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 特別展の図録や名品50選などの制作は記念館の存在意義にも係る事業であり、止めるわけにはいかない。印刷部数と単価の関係から適正な価格で販売するには一定量を作らなければならない。過去に発刊したもので必要量を大幅に超える在庫の活用法が課題。			
<b>課題への対応</b>	【今後の課題への対応】 図録などの在庫は「不良在庫」ではないとの認識を顧問税理士とも共有している。必要量を超える在庫は所管課と評価基準を協議し、記念館の設置目的に合致するよう美術館、図書館、教育機関などに寄贈するなど会計処理上問題のない形で整理する。				